

# DEBUT 首長

東京都稲城市長 高橋 勝浩氏

## 「地域完結型医療」を目指す 公会計に複式簿記の手法導入



たかはし・かつひろ 1963年東京都府中市生まれ。85年早大卒、稲城市に就職。財政課長、生活環境部長などを歴任。2011年4月に市長に初当選。趣味はバスケットボール、読書。48歳。

**東京都稲城市** 多摩南部に位置し、ナシやブドウの産地として知られる。サッカーJ2の東京ヴェルディが本拠地を置く。人口8万5200人。

——稲城市の抱える課題は。

稲城市は多摩ニュータウンで最後にできた若い街だ。市民の平均年齢は都内で最も若く、65歳以上の市民の割合を示す高齢化率も16.9%と低い。他のニュータウンは高齢化が進み、施設も老朽化して人口が減っている街がある。稲城市は一気に開発造成せず、古いも若きもいて所得層も偏らないバリエーションある街づくりを目指している。

長年、市民の賛否が割れていた南山東部土地区画整理事業はバランスある開発を目指したい。公共緑地の比率を現行計画の18%から、ニュータウン区域平均の23%以上に増やす。公営墓地とメモリアルホールを府中市と共同で整備する。

もうひとつが福祉医療の充実だ。2012年春、温水プール付

きの健康プラザを市民負担なしで完成させる。併設する市立病院健診外来棟には最新のMRIやCTを導入する。

これと並行して、市立病院の電子カルテの診療情報を、インターネットで市内の約40の医院・診療所と共有する地域医療連携システムを今年度内に構築する。診療所から市立病院のカルテや画像データが閲覧でき、MRIやCTの検査の予約もできる。退院後の経過観察に地域の医療機関が対応でき、患者も転院時に再検査をする必要がなく医療費が抑えられる「地域完結型医療」を確立したい。

——行財政改革の目標は。

健全財政を維持するために、公会計に複式簿記の考え方を採り入れたい。自治体会計の「現金主義・単式簿記」の欠点を補うため、市は10年以上前から「発生主義・複式簿記」の手法を導入したバランスシートや行政コスト計算書を作ってきた。さらに精緻にするには、コンピューターシステムの導入が不可欠で、資産・債務管理が重要になる。固定資産台帳を作るだ

けで数年かかるが、任期中に何とかメドをつけたい。公会計改革は市民への説明責任を果たし、行政と共同責任を持ってもらうためにも進めていきたい。

職員数を削減して、職員1人当たりの市民受け持ち人口を、現在の206人から多摩地区トップクラスの210人以上にしたい。

——11月に市制施行40周年を迎えた。

市在住のメカニックデザイナー、大河原邦男さんが手がけたアニメの「機動戦士ガンダム」「ヤッターマン」などを絵柄にした記念住民票、記念切手シートを発行した。市特産のナシをモチーフにしたイメージキャラクターも作った。

稲城市は自然が豊かで、野球やサッカーのチームの拠点があるなど有望なコンテンツが多いのに、これまで生かし切れていなかった。役所内に、観光を専門に取り組む部署をつくれなか、と考えている。

(聞き手は地方部 杉野 耕一)